

[年度] 平成 2 0 年度和歌山県農林水産総合技術センター研究成果情報

[成果情報名] 休耕田を活用したコゴミ（クサソテツ）省力化栽培実証試験

[要約]

山村地域の新たな特用林産物の産品づくりのため、休耕田でコゴミ(クサソテツ)の省力化栽培実証試験を行った。その結果、休耕田でも十分に栽培が可能であり、栽培適地となること。耕耘・畝立、施肥をしない省力的な方法でもある程度の収穫が見込めることが示唆された。

[キーワード] 休耕田、コゴミ、山菜、省力化栽培、栽培実証

[担当機関名] 林業試験場 特用林産部

[連絡先] 0739-47-2468

[部会名] 林業・木材部会

[分類] 指導

[背景・ねらい]

山村地域では、過疎化や高齢化が進み、耕作放棄地が急増し深刻な問題となっている。山菜類は夏も涼しく半日陰地で湿潤な場所に自生する種類が多く、野菜栽培には不利な山間地の休耕田での栽培が有利となる可能性がある。また、高齢者でも労力をかけずに容易に取り組み、省力化栽培が可能な山菜の導入が求められている。そこで、最近人気の山菜であり、県内の一部に自生するコゴミに注目し、伊都郡かつらぎ町の農林家と共同して栽培実証試験を行った。

[成果の内容・特徴]

- 1 . かつらぎ町志賀地区において、2005年12月に自生株を採取し、成株10本を休耕田に試験区を設定して定植し、3年間の生長量、収穫量等の調査を行った（表1、図1）。
- 2 . その結果、全ての試験区において生育障害や収穫不能な株はなく、草丈長は1m以上となり、休耕田での栽培が十分に可能であることが示唆された（図4、図5）。
- 3 . 収穫量は従来型栽培（A区：49.4g / 株）、省力化栽培（C区：38.7g / 株）となり、従来型栽培が多くなる傾向が見受けられたが、C区のような無耕耘・無施肥の省力化栽培でもある程度の収穫が見込めることが示唆された。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 休耕田での栽培が十分に可能であることから、野菜栽培には不利な山間地の休耕田がコゴミの栽培適地となると考えられる。
- 2 . 栽培方法は、従来型栽培、省力化栽培ともに有効であり、生産者の生産能力や栽培規模に応じて選択が可能であると思われる。
- 3 . 栽培を希望する農林家が増加しており、今後は効率的な育苗技術の検討が必要である。

[具体的データ]

表1 コゴミ若芽の収穫量及び草丈長(2008年)

試験区	耕耘・畝立	株間 (cm)	株数 (個)	施肥	収穫本数 (本/株)	収穫量 (g/株)	若芽重量 (g/本)	草丈長 (cm)	備考
A	畝高(10cm)	50	10	元肥・追肥	6.9	49.4	7.2	119.3	従来型栽培
B	畝高(10cm)	50	10	なし	5.7	40.2	7.1	119.4	
C	なし	50	10	なし	6.7	38.7	5.8	108.4	省力化栽培

元肥:牛糞(3kg/m²) 追肥:N肥(10g/m²) 年2回(3月・7月)



図1 コゴミ栽培実証試験地(かつらぎ町)



図2 収穫適期(4月)



図3 生育状況(6月)

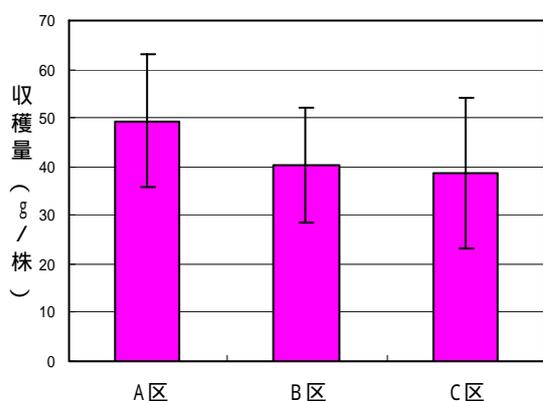


図4 1株当たりの収穫量(2008年)

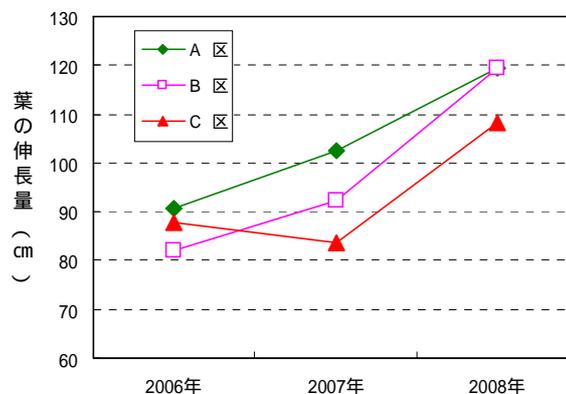


図5 草丈長の経年変化

[その他]

研究課題名: コゴミ栽培実証試験

研究期間: 平成17~20年

研究担当者: 坂口和昭、杉本小夜、加藤万季、城戸杉生

発表論文等: コゴミ栽培実証試験 和林試業務報告 No.64・2006、No.65・2007



図6 ランナーによる育苗

